



未来のミライ

細田 守

第七課

小説の読み方

单語

魅力 → チャーミング

恋

狐 → 虎、象、狼

薄目 → 濃いめ → 目：(接尾)： ①数を表す語に付いて、順序を表す。「三番一」 ②形容詞の語幹に付いて、多少その性質や傾向をもつことを表す。「多一」 ③動詞の連用形に付く。その状態にあることを表す。「落ち一」「弱り一」「控え一」 その箇所であることを表す。「縫い一」「季節の変わり一」

見定める → 見逃す

切斷 → 遮断

単語

術 (すべ・じゅつ)

省みる → 反省

満たす → 満ちる

翻訳 → 通訳

辛抱 (する) : ① じっとがまんすること。② がまんして働くこと。「長年一した甲斐があって、やっと店をもてた」

→ 我慢する：感情や欲望のままに行動するのを抑え堪え忍ぶこと。「空腹を一する」

→ 凌ぐ：①苦痛や困難に屈しないで、耐えしのぶ。苦難を乗り越える。また、防ぎ止める。

「飢えを一・ぐ」②あるものを超えてそれ以上になる。「若者を一・ぐ気力」

→ 耐える：苦しさ・悲しさなどに屈せず我慢する。「苦痛に一・える」「孤独に一・える」

単語

かじる（齧る）：① かたいものの一部を、少しづつ歯でかんで削り取る。「リンゴをー・る」② ある分野の勉強を始めてすぐにやめてしまう。「ロシア語を少しー・りました」

文型

1.一向（に）～ない

→ まったく～ない、ちつとも～ない、全然～ない

2.ものではない→ものだ

①この「～ものだ」は「さすがに～だ！ / 予想通り～だ！」という驚きや感嘆・詠嘆を表す。それまで知らなかつた真相を発見したり、誰でもそう思うのが当然の客観事実ながら、改めて再確認したりしたとき発する場合に使われます、感嘆の対象は多くの人が共有できる普遍事実や真理である。

例：子猫って可愛いものだ。

人間ってわからないものだ、あんな泣き虫が、今や大臣とはねえ。

→ ②たものだ：「～たものだ」(口語形は「～たもんだ」)は、ほとんどの場合は過去を回想する表現となる。もし「～たものだった」と使ったときは、既に過ぎ去りもう戻ってこないという詠嘆を

文型

込めた表現になる。なお、「～たことがある」も過去の経験を述べるが、「～たことがある」は一回性のことであるが、「～たものだ」は習慣性のことになる。

例：昔、(よく)この川で釣りをしたものだ。

③動詞・形容詞の原形や否定形(「ない」形)と結びついて、断定を表す場合と、義務・当然を表す場合がある。「べきだ」と共通しているのは、普遍的事柄や社会常識からの判断した一般論を述べることである。

例：人間は死ぬものだ、<普遍事実>

学生は勉強するものだ、<義務・当然>

④否定の形は「～ないものだ」と「～ものではない」の二種類があります、「～ないものだ」は「～ないのが当然だ」という一般論であるが、「～ものではない」は「～べきではない」と禁止の意味

文型

を表す場合が多い。

→ ものか：①「～ものか」は形式名詞「もの」が作る慣用文型で、動詞・形容詞の「原形/ない形」について、相手の考え方や意見を否定し、強く「絶対～ない」と反発する反語表現になる。話し言葉として「～もんか」、丁寧体として「～ものですか/～もんですか」がある。

例：あんな怠け者が合格できるもんか！

もう二度と彼の言うことなんか信じるもんか。

②主に方法がわからず「どうしたらしいだろうか」と自問する表現を作る際に、使われる。

例：彼はどうしたものか、最近学校に来ないねえ、<自問>

卒業後どうしたものか、悩んでいるんです、<疑問>

文型

→ ものなら：①（意志・推量の助動詞「う・よう」「まい」を受けて）その動作・状態がきっかけとなって、結果が思わしくなくなるといったときの、その前件を表す。「悪口を言おうー、すぐに仕返しをされるだろう」②つきはなすような気持ちをこめて、仮定条件を表す。「そんなことでいいー、だれにでもできます」③（可能の意を表す語を受けて）なじるような気持ちをこめて、つきはなす場合に用いる。「～ものなら」は状態動詞(ある・いる・できる・わかる・要る)について、後件で願望や期待を表す表現であり、実現がほとんど不可能だと思うことを取り上げるのが特徴である「できるー、やってみなさい」「歌えるー、歌ってごらんなさい」

3.ばかり・だけ

文型

限定の「～だけ」と「～ばかり」には次のような違いがある。下例の(a)のグループは「だけ」と置き換えることができるが、(b)のグループは「だけ」が使えない。それは(b)は同一の行為が多く繰り返される、或いは同類の物が多く存在するという意味で使われているから。

(a)彼女ばかりと話す/私ばかりに文句を言う/男ばかりの会員

(b)お世辞ばかりを言う/心配ばかりかける/石ころばかりの河原

では、会場には、若者ばかりではない。

会場には、若者だけではない。

について、どう違うのか。

精読

1. 作者はどうして狐を笑えないと思っているのか。
2. 小説に中毒するというのは、どういうことなのか。
3. 小説や思想の書物などにどのように接したら良いのか。
4. 小説を読むことを通して、「人生を経験した錯覚」はどういう意味のか、例を挙げながら、説明してください。
5. 文章の内容を踏まえて、読書の「真髓」はどこにあるのか、一言でまとめてみてください。